

年頭のごあいさつ

平成 25 年が明けました。町民の皆様は穏やかなお正月を迎えられましたでしょうか。昨年、久々の政権交代で何となく今年は希望が持てるのではないかとこの雰囲気がありますがいかがでしょうか。

さて、このお正月は私にとって山都町で迎える五回目のお正月でした。病院は 365 日 24 時間、医師の誰かが常駐しておかねばならず、年越しの日直当直は私が必ず行うようにしています。今年の元旦は暮れから猛威をふるう感染性腸炎（ノロウイルスなど）やそろそろ山都町でも出始めたインフルエンザなどの患者さんが多く、約 30 人の方が急患でこられました。早く流行が終息することを祈るばかりです。

昨年 11 月には新病院が完成し、診療を再スタートすることができました。これまで狭くて老朽化した施設で大変ご迷惑をおかけいたしました。ようやく療養環境が整備されました。広くなった病院に戸惑われて、「どっちに行ったらいいかわからん」などの声も当初は聞かれましたが、すこしずつ慣れてきていただいているかと思っています。新病院は「病院らしくない病院、病める人も健康な人も集える病院」との考え方とともに、プライバシー保護の面も重視した結果、診察・処方だけの患者さん、検査などが必要な患者さん、スタッフの動線が重ならないようなつくりになっております。その反面スタッフがバタバタと歩き回る姿があまり表からは見られなくなって、患者さんも声をかけ辛くなっているかもしれません。できるだけ「目配り、気配り」をするように全職員に指導しておりますが、不行き届きの点はどうぞご指摘ください。

また、病院名も少し変更し「山都町包括医療センターそよう病院」としました。医療に加えて保健（健康づくり）、福祉（介護）サービスまでを総合的・一体的に提供する「地域包括医療・ケアシステム」の拠点としての活動を大きな目標の一つとしています。そこで今回、「包括医療」という文言を掲げました。全町民の皆様がいつでも受診できますという思いもこめております。また、地理的位置を示すために、漢字ではやや重たい感じのする「蘇陽」をひらがなで残しました。少々荷が重い名称ですが、「仏作って魂入れず」ではいけません。そうならないように、医療内容とサービスの充実をなおいっそう進めるように、職員一同頑張っけてゆく所存です。

山都町の医療機関はどこでも、医師をはじめ薬剤師、レントゲン技師、看護師などの専門職が不足しています。特に医師不足は全国的に大変深刻な問題になっており、当院も常勤医師は 3 人ががんばっています。われわれも様々な方法で医師確保に努力していますが、これからは住民の皆様にも地域の医療機関を支える一員として、お知り合いやご親戚などのネットワークを駆使し人材をご紹介いただけたら幸甚に存じます。

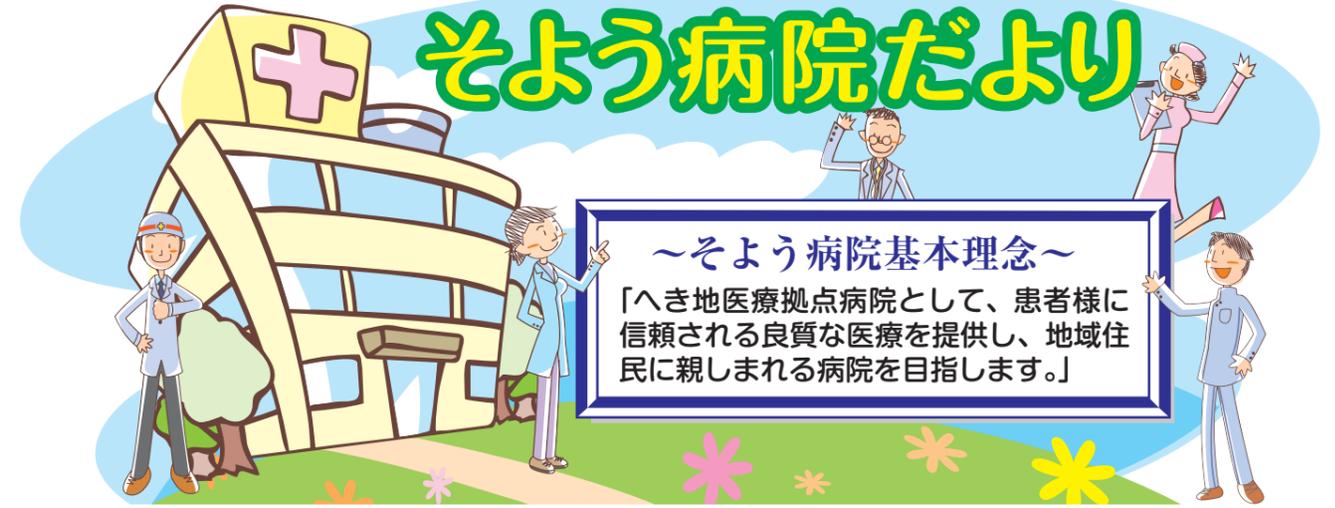
地域住民とともに山都町を住みよい郷土になるように、医療の面から頑張っけていきますので今年もよろしくお願いたします。



水本 誠一 院長

山都町包括医療センター

そよう病院だより



～そよう病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

特集 家庭でできる リハビリ

第 8 集 ひざの痛み その 2（変形性膝関節症）

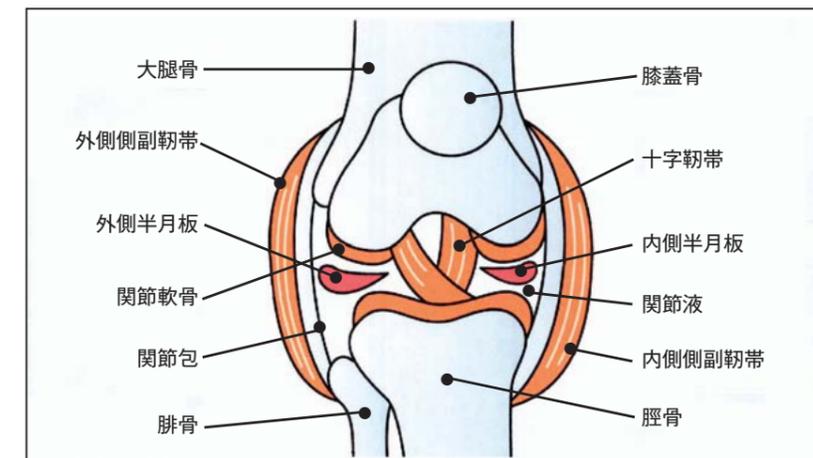
リハビリテーション科 仁木 一雅

変形性膝関節症（関節痛・膝痛）. 関節痛は、高齢になると、ほとんどの方が持っているといわれています。その関節痛の多くが、関節軟骨の磨耗が原因の変形性膝関節症です。今回はひざ関節の仕組みと働きをお話しします

■膝関節の仕組みと働き

ひざ関節は大腿骨（太ももの骨）脛骨（すねの骨）膝蓋骨（ひざの皿）の 3 つの骨が連結しています。大腿骨と脛骨の間にはクッションの役割をしている関節軟骨・半月板などがあり関節の安定性を支える十字靭帯があります。関節の周りには関節を覆っている関節包がありその中は関節液で満たされ関節が動くときの潤滑油の役割をしています。両側には内・外側副靭帯があり関節の安定性をさらに高めています。ひざ関節を動かす筋肉にはひざを伸ばす大腿四頭筋とひざを曲げるハムストリングスがあります。これらの骨や靭帯のコントロール・筋肉の複雑な働きが統合され円滑なひざの動きが行われます。

ひざ関節は蝶番のように単純に曲がったり伸びたりする関節ではありません。蝶番のように動く軸が一つではなくひざが曲がる時に回転の中心が少しずつ後方へ移動する多軸性関節です。可動性も広く歩行時には約 60 度、しゃがむときには約 120 度、正坐で約 150 度と言うように広い範囲の屈伸運動を担っています。



正面図

※次回は、変形性膝関節症の治療法についてお話しします。